

HPTCJが山形市で研究会

# 帯水層蓄熱に高い関心

## ATES導入 酒田市新庁舎も説明

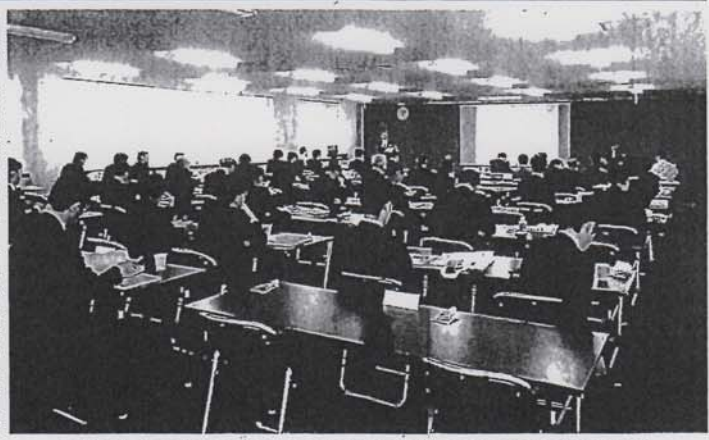
帯水層蓄熱システム(ATES)の性能等はいかに。ヒートポンプ・蓄熱センター(HPTCJ)地下熱利用とヒートポンプシステム研究会は10日、山形市松原の日本地下水開発(JGD)会議室で今年度第3回研究会を開催した。J

GD、産業技術総合研究所、藤井光秋田大学大学院教授の3者が、環境省の地球温暖化対策技術開発・実証研究事業に基づき実施しているATES

冷熱を排熱する冷水域を夏季の冷房に、それぞれ利用し、冷暖房の高効率化を図るもの。山形市内にあるJGD本社とJGD秋田営業所で実施している。

ATESは、帯水層を天然の蓄熱槽とし、夏季に温熱を排熱する温水域を冬季の暖房に、冬季に冷熱を排熱する冷水域を夏季の冷房に、それぞれ利用し、冷暖房の高効率化を図るもの。山形市内にあるJGD本社とJGD秋田営業所で実施している。

ATESは、帯水層を天然の蓄熱槽とし、夏季に温熱を排熱する温水域を冬季の暖房に、冬季に冷熱を排熱する冷水域を夏季の冷房に、それぞれ利用し、冷暖房の高効率化を図るもの。山形市内にあるJGD本社とJGD秋田営業所で実施している。



帯水層蓄熱システムの実証試験の結果に来場者の関心が集まった

地評価手法の確立を担う地産総研では、山形盆地、仙台平野、秋田平野でのATES適地分布の作成

を通じて、将来的には全国の主要平野・盆地の適地評価を実施し、クローズドループ型、オープンループ型それぞれの地中熱利用システムの適地評価と比較し、地域の水理地質環境に応じた地中熱利用システムの提案につなげたいとしている。

2017年竣工予定の酒田市新庁舎では地中熱利用ヒートポンプシステムの導入が決まっております。設計した日本設計の担当者が講演。基礎杭による熱交換に加え、ATESも導入する予定で、庁舎の空調や冬季の融雪設備に利用する計画を紹介した。